

2020年度 みらいのまちづくり実践委員会

委員長 猪原 英和

1. 運営方針

私が育った町は、海が見える町でした。校舎から見える輝く海を気にも留めない、本の虫であった小学生の私は、母から「自然を見て、きれいだなと思える感性を持ちなさい。」と諭されました。当時は反発しましたが、3人の子の親となった今、子どもに触れさせたいと思うのは、熊谷の自然を守りたいと強く想う人々の地道な活動により磨かれた、熊谷の魅力ある自然でした。

しかしながら、自然を守る人々が熊谷の魅力ある自然に価値を感じている一方で、魅力ある自然の価値を感じていない人々は少なくありません。魅力ある自然の価値を感じられなければ、自然を守る活動の価値も感じられません。自然を守る活動に参加する市民がわずか10.6パーセントしかいないことは、熊谷市民でさえ魅力ある自然や自然を守る活動に価値を見出していないことの表れです。熊谷の魅力ある自然を後の世代に受け継ぐためには、まずは誰もが普遍的に価値を感じる「遊び」や「健康」をきっかけとして、地域内外の人々に熊谷の魅力ある自然を知り、その価値を感じてもらうことが必要です。魅力ある自然に価値を感じた人々は、自然を守る活動に興味を持つようになります。市民には自然を守る活動に参加してもらい、やがて人を巻き込むほどの強い想いで自然を守る活動に取り組んでもらわなければなりません。

2020年度みらいのまちづくり実践委員会では、「遊ぼう、熊谷の自然」をテーマに、熊谷の豊かな自然を活かした健康な心と体を育むことのできる「遊び」の体験をつくります。健康と熊谷の自然を結びつけた「遊び」を、社会関係資本団体を中心とする産学官民のパートナーシップを活かして構築します。地域内外の子どもたちに「遊び」に参加してもらい、健康な心と体を育んでいる姿を通じて、地域内外の人々がそれぞれ自然に対して感じる価値をより高め、市民が人を巻き込むほどの強い想いを持つ第一歩とします。そして、産学官民のパートナーシップを活かして「遊び」ができる環境を維持できる仕組みを構築し、いつでも地域内外の人々が自然に対する価値観を変革する機会を得られるようにします。

「遊び」を通じて地域内外の人々が熊谷の魅力ある自然の価値を感じることは、価値観を変革した市民により魅力が磨かれ続ける熊谷の自然が地域内外の人に恩恵を与え、人を惹きつけるという「自然と共生したまち熊谷」をつくることにつながります。やがて、人を惹きつける魅力ある自然が「定着人口」を増加させ、「誇りある地域 熊谷」の創造に結びつくものと確信します。

2. 事業計画

- (1) 社会関係資本団体との情報共有と意見交換をするための共生ミーティングの開催
- (2) 地域内外の人々に対して、社会関係資本団体を中心とする産学官民のパートナーシップでつくる「遊び」を広く周知するための情報発信
- (3) 地域内外の子どもたちが熊谷の魅力ある自然を活かした健康な心と体を育む体験である「遊び」を行う事業の実施
- (4) 産学官民のパートナーシップの力を活かして、「遊び」ができる環境を維持する仕組みの構築
- (5) 非日常の機会と地域資産の魅力を掛け合わせた原体験を提供し、地域の大人、子ども、地域資産がつながることのできる寺子屋事業の実施
- (6) 熊谷の子どもたちが熊谷の地域資産と地域資産とつながりのある大人を知り、自発的な行動を促すことができる地域新聞の発行

みらいのまちづくり実践委員会

【メンバー紹介】

：委員長
猪原 英和
：猪原法律事務所



：副委員長・理事
嶋村 浩伸
：（有）嶋村塗料店



：理事
小林 和也
：（有）小林不動産



：副委員長
長澤 元樹
：（有）長澤木材店



：委員
荻野 大輔
：（株）国分商会



：委員
棚澤 幸治
：たなごころ



：委員
千葉 義浩
：NPO法人
関東商エセンター



：委員
千原 彬美
：（株）パイロテクニカ



：委員
吉田 良輔
：埼玉県信用金庫

